

■■メールマガジン「静岡県防災」第52号■■

～ 楽しく学ぶ防災訓練 ～

静岡県では、9月1日の「防災の日」に併せて毎年、総合防災訓練を実施しています。

しかし、令和2年以降コロナ禍の影響で十分な訓練が実施できなかった地域も少なくありません。地域のお祭りなどの伝統行事と同様に、一度途絶えてしまうと復活には時間と労力を必要とします。今回のメルマガでは、小中高生が楽しく防災について学べる訓練の事例やアイデアを紹介します。防災訓練復活の一助となれば幸いです。

・ 中高校生が安否確認！

中学生や高校生が安否確認の中心として活躍！家族が無事な目印として、黄色いハンカチを家の見える場所に結びつける等の取り組みをしている地域も少なくないと思います。訓練では、その目印の確認を中高校生と一緒に行うのはどうですか？安否確認と併せて、町並みの把握や、地域の方と顔の見える関係を築くことができます。また、中高生の段階で訓練を行っておけば、その子どもたちが大人になってからも、スムーズな安否確認が期待できます。

安否確認の目印がない地域では、無事なことを知らせる目印（札）等を小学生と一緒に作成してみたいかがでしょうか？自分の作った目印を掲げることで、子供たちの防災意識の向上も期待されます。

・ ダンボールを使った簡易トイレ作成コンテスト

小学生や中学生がグループで、廃ダンボール（使用済みダンボール）を使用して、簡易トイレを作成するコンテストをやってみたいかがですか？使用していいものは「ダンボール」「ガムテープ」「ハサミ」のみ、制限時間は30分で使いやすく耐久性のある簡易トイレを作成します。自主防の方が審査し、表彰するのも盛り上がるかもしれません。少し大きくなりますが、同じようにダンボールベッドやパーティション等を工夫して作ることもできます。

・ 避難経路で肝試し

夜の避難訓練を楽しい肝試しにしてみませんか？災害はいつ起こるか分かりません。夜の避難も経験しておくともよいかもしれません。懐中電灯を持ち、非常持ち出し袋を背負って、家族で避難場所まで避難する訓練を計画してみてください。

災害時に危険な場所には、お化け等（危険箇所になんだ）を配置して、小さい子にも分かりやすくしてみる工夫もよいかもしれません。併せて非常持ち出し品の確認も行うこともできます。夜の移動なので、熱中症対策もバッチリです。

・納涼祭や地域のイベントでプチ防災

お祭りの屋台と言えば、焼きそば、フランクフルト、射的や輪投げが思い浮かびますが、そこにひと工夫！

水消火器等による的当てや、防災食(アルファ化米等)の屋台を出して、防災を身近に感じるのはいかがでしょうか。

楽しんで、子どもたちが防災について学べる機会を地域のイベントに盛り込むことで、企画する大人を含めて地域全体の防災意識の向上が期待されます。

・ラジオ体操で防災ラジオ点検

夏休みと言えばラジオ体操ですね！各家庭で、防災ラジオ（ラジオアプリ等）を使って、夏休みの1日、家族でラジオ体操をやってみませんか。

能登半島地震でも、多くの避難所でラジオ体操から1日の避難生活が始まっていました。また、災害時ラジオによる情報の収集も大切です。

早起きしてラジオ体操による健康維持と、防災ラジオの確認ができ、一石二鳥です。

今回紹介した訓練以外にも、以下のリンクより様々な防災訓練の事例やアイデアが紹介されています。ぜひ参考にさせていただき、地域の防災訓練の計画を立ててみてください。

- だって、みんな助かりたいんだもん（静岡県地域防災活動推進委員会）
https://www.pref.shizuoka.jp/_res/projects/default_project/page/001/029/998/255-2011-1.pdf
- 防災まちづくりポータルサイトへようこそ（内閣府）
<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/minna/machidukuri/index.html>
- 防災訓練に必要なのは「遊び」？防災を社会に広げるための楽しい仕掛けづくり（日本財団）
<https://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2022/81261/disaster>